

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20 年 1 月 29 日

【評価実施概要】

事業所番号	2191500020		
法人名	特定非営利活動法人 ひなたぼっこ		
事業所名	そよかぜ		
所在地	岐阜県中津川市高山1951番地43 (電話) 0573-76-1130		
評価機関名	NPO法人ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成20年1月29日	評価確定日	平成20年3月7日

【情報提供票より】 (平成 20 年 1 月 15 日 事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 19 年 1 月 15 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	16 人	常勤 8 人, 非常勤 8 人, 常勤換算	5.78 人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1 階建ての	1 階部分	

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000 円	その他の経費(月額)	15,000~ 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無	
食材料費	朝食	300 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	円
	または1日当たり		1,200 円	

(4) 利用者の概要 (平成 20 年 1 月 13 日 現在)

利用者人数	9 名	男性	2 名	女性	7 名	
要介護1	名		要介護2	2 名		
要介護3	2 名		要介護4	3 名		
要介護5	2 名		要支援2	名		
年齢	平均	86 歳	最低	78 歳	最高	97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	古瀬医院 国民健康保険蛭川診療所
---------	------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市郊外の丘陵地、小鳥の多い雑木林に囲まれた眺望絶景の別荘地に、棟続きの障害者施設とともに昨年1月に開設した木造平屋建て1ユニットのホームがある。特定非営利活動法人としてデイサービスを運営している経験が活かされ、多くの人の支援を受け、公平平等な開かれた経営や真摯な学習活動がなされており、余裕のある職員数でその介護の水準は高く温かい。風呂はさわらの木の浴槽、入浴リフト・車イス用垂直リフト、無料の通院介助、無料貸介護ベッド、施設内は自然還流方式の空調、と優れたものがある。入居希望者が開設前に亡くなられ、その方を偲んで、玄関の向かいに地蔵が建立されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての受審である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価項目は職員が分担して見直し、それを会議で検討し、記入する方式がとられた。日頃の活動のチェック作業であると意義づけて見直しが行われた。運営推進会議には今回の外部評価制度やその意義などが報告されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は、その会議にあわせてクリスマス会を催して利用者と一緒に楽しんでもらえるようにしたり、日頃の生活ぶりの報告をしたり、2ヶ月に1回は定期的に行われている。市の担当者は、運営推進会議にも出席しており、また、事業所の依頼により総会や研修等で講演を行っている。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	職員の制作であるホーム便り『そよかぜ通信』が、毎月家族に送付されている。その内容も充実したものとなっている。来所時に利用者の状況を報告・相談し、家族会もある。苦情箱の設置や自主的な家族アンケートも行い、顧客満足度の向上に努力している。その満足度は高い。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ホームの建築時には、近隣関係者の賛同を得るに至るまでには説明会などの苦勞があったが、今では野菜などの差し入れがあり、地域の各種イベントへの参加や自主防災会議にも出席している。夏休みには子どもの来客もあり、打ち解けた交流になっている。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	いつまでも人としての尊厳が保てるよう『選択の自由』『安心できる空間・たすけあう人間関係』『人権とプライバシーの確保』『活動的で意義深い生活』の理念が作られ、食堂などに掲げられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	地域のカラオケ大会や祭りなどの行事には積極的に参加し、地理的・距離的なハンディはあるものの、それを越えた交流が行われている。ホーム内の生活は、かなり自由度が高く、利用者同士の会話が多い。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームの建築時には近隣関係者の賛同を得るに至るまでには説明会などの苦労があったが、今では野菜などの差し入れがあり、地域の各種イベントへの参加や自主防災会議にも出席している。夏休みには子どもの来客もあり、打ち解けた交流になっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価項目は職員が分担して見直し、それを会議で検討し、記入する方式をとっている。日頃の活動のチェック作業と意義づけて見直しを行っている。運営推進会議には、今回の外部評価も議題として取り上げられ、記録されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議にあわせてクリスマス会を催して利用者と一緒に楽しんでもらえるようにしたり、日頃の生活ぶりを報告したり、2ヶ月に1回は定期的に行われている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者は、運営推進会議にも出席しており、また、事業所の依頼により総会や研修等で講演を行っている。法人への助成も含めて連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	職員制作のホーム便り『そよかぜ通信』が、毎月、家族に送付されている。その内容も充実したものとなっている。利用者家族等の来所時に報告・相談し、家族会もある。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情箱の設置や自主的な家族アンケートも行い、顧客満足度の向上に努力している。その満足度はかなり高く、評価しうるものである。	○	重要事項説明書の外部苦情相談窓口に、外部の公的機関も掲載されたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設間もなく利用者は定員一杯となり、その後の1年で、利用者・職員共にまったく異動はない。離職しなくてもよい職場を目指しながらも、チーム編成によるチーム担当制でダメージの予防措置もとられている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	きめ細かな研修カリキュラムが法人の制度として制定されている。自主的な外部研修費はホーム側のニーズによって費用負担が考慮される。権利擁護、成年後見、リスクマネジメントなど、内外を問わず、研修項目も幅広い。毎月1回、ミニ研修が内部で行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	医療福祉ネットワークやグループホーム協議会における勉強会の参加したり、市内の他グループホームとも個別に情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	職員と顔なじみであったり、親戚だったり、共通の知人があったりして、利用者は入居当初から落ち着いている。開設1年で利用者の異動はまったくないが、同法人経営のデイサービスを体験してからの入居も想定している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員も利用者も、ともに地元出身者が多く、畑仕事なども一緒に楽しんでいる。教訓となったり感銘を受けた言葉を書き留めているが、いずれ『○○さん語録』のような形でまとめる予定である。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	毎日の生活の中で一寸した言葉からも本人の意向を感じとり、介護記録に記載し、チーム全員で確認しあっている。	○	毎日の生活の中で気づきのあったものは、介護記録に記載されているが、その中から必要と思われるものはフェイスシートにも記載し、後々の担当者でも一目で分かるようにする事が望まれる。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の意向の把握に努め、チームで気づきを出し合い、介護計画が作成されている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	利用者家族、職員、施設ケアマネジャー、担当ケアマネジャー等で構成されるサービス担当者会議や毎月の職員会議で課題を検討し、3ヶ月毎に見直している。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	自主サービスで無料の通院介助を行い、成年後見制度などの相談にも応じられるよう研修も受講している。夜勤の専任は1名だが、棟続きの障害者施設の夜勤者の応援もあり、心強い。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	無料の通院介助サービスにより、かかりつけ医に継続して受診できる体制はとられているが、糖尿病専門医への変更や毎月往診して健康診断や治療が出来るホームの協力医療機関に変更することもある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	希望があれば出来るだけ対応する方針ではあるが、そうした対応が自分たちで出来るかどうか、その問題点などを真摯に検討中である。	○	本人や家族の思いがホームの方針とズレないためにも、ホームの力量を十分検討し、その取り組みに期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報取り扱いをしていない	介護記録の取り扱いや入浴・トイレ誘導の言葉かけなど、職員研修を始め、日頃から、理念『人権とプライバシーの確保』の実践に努めている。また、面会受付記録簿は家族等のプライバシーに配慮し、カード方式になっている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	気ままに1人だけ遅い昼食をとる人、昼下がりの休息をとる人、物思いにふける人、折紙を折る人、自分の服を畳んでいる人、と思いきいに過ごしている。ズイキや干し柿づくりでは利用者が活躍している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	近隣農家からの野菜の差し入れはあるが、良質の食材が生活協同組合から届けられている。料理が不得手な人にはやや負担ではあるが、職員が交代で調理している。時間はマイペースであるが、重度の方も自分で食べている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	良質のさわら材でつくられた木の風呂は温泉宿の雰囲気である。隔日の入浴ではあるが、風呂は毎日準備するので、希望すれば入浴できる。脱衣所には補助暖房が使用され、負担の少ない入浴リフトが設備されている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	カラスミや五平餅づくり、手芸、洗濯物たたみ、畑の草取り、外出、買い物と楽しみごとは多彩である。雑木林の小鳥が戯れている様子が居間から見え、利用者同士の会話もはずんでいる。施設内の絵はボランティアが入れ替えている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	地域の祭り、地歌舞伎(常磐座)、花見、カラオケ大会、買い物、喫茶店、散歩等、多彩に行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室の鍵は、就寝時に利用者が中から鍵をかける場合もあるが、その他には使用されていない。重厚な木で造られたベランダは安全・安心で、気の向いた時に自由に出入りして外気に接することが出来るので、開放感がある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害時の避難訓練を実施し、消防署への緊急通報装置が設置してある。地域の『自主防災会議』に出席し、地域との連携も図られている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事の好みは、全職員が全利用者を把握しており、献立の段階から配慮している。水分補給や食事量は、ケアの中でチェックされているが、チェック表による管理を検討中である。	○	職員間で情報を共有するためにも、記録という形で残すことが大切であり、支援内容が明確になるので、検討し、取り組みに期待したい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には車イス用の垂直リフトが設置されている。トイレは広く、数も多い。施設内の換気・空調は熱交換タイプの機器を使用した自然還流方式がとられており、人にやさしい空調となっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各室とも介護用ベッドはホーム側で用意し、無料で使用されているが、整理ダンスなど、利用者の持ち込み品も多く、各々、その人らしい部屋の雰囲気が出ている。居室表示は、ボランティアによる似顔絵である。		

※ は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。